

議題1 「かかりつけ医を支援する機能として、地域で不足している医療や必要となる医療」について

議題2 「地域における医療の確保を図るために地域医療支援病院の管理者が行うべき事項として追加する責務」について

【対面会議】

区域	福岡・糸島	宗像	田川
議題1	不足している医療や必要となる医療は特にない。	特にない	特にない
議題2	● 第三者による評価を受けること	なし	なし

※ 議題2に関する意見について、既に承認要件とされている事項や追加する責務とすることが難しい事項は赤字にしています。

【書面会議】

区域	粕屋	筑紫	朝倉	久留米	八女・筑後
議題1	<ul style="list-style-type: none"> 粕屋中南部の小児救急患者の受け入れ体制の整備 とびうめネットを基盤とした基幹病院、後方支援病院、診療所(かかりつけ医)の3者での連携 がん診療に関する、地域の医療機関との連携 災害医療 	<ul style="list-style-type: none"> 病診連携のある在宅医療を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 深夜小児救急医療・周産期医療の充実 ICTを活用した病診連携(とびうめネットの普及促進) 	<ul style="list-style-type: none"> 提供する医療の地域差が課題 久留米地域の中心部において医療は不足していないが、周辺地域では不足している医療への支援が必要。 	八女筑後医療圏東部中山間地域の高齢化のスピードは速く、益々深刻さを増していることから、医療の様々の状況に対応していく必要があり、地域の高齢者を対象とした医療、介護に限らず、現在のコロナ禍でのワクチン接種や健康相談、健診など、総合的な関与が必要である。(意見の詳細は別紙)
議題2	<p>地域医療支援病院に任意に求められる取組みをすべて努力義務とする</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 病院の機能について広域を対象とした第三者による評価を受けていること ● 逆紹介を円滑に行うための退院調整部門を設置すること ● 地域連携クリティカルパスを策定するとともに、地域の医療機関に普及させること ● 情報通信技術を用いた病診連携(とびうめネット等)を整備すること(粕屋医師会ではとびうめネットを活用した医療地域ネットの整備を進めている) ● 地域の看護学校実習生を受入れること 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域医療支援病院としての「公的医療機関等2025プラン」の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝倉区域における地域医療支援病院はその役割を十分に果たしていると考えている。地域医療支援病院の承認要件を各病院が十分に満たしているのかを行政が定期的に検証を行う仕組みが必要である。特に共同利用施設としての活用状況や第三者による評価を定期的に受けていることなど。 ● マイナンバー制度の活用、利用状況の拡大に向けた取り組み ● 退院するにあたり、施設への移動ではなく、在宅への移行を積極的に取り組む姿勢。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ICT(情報通信技術)を活用した病診連携 	八女医療圏における地域医療支援病院は、公立八女総合病院と筑後市立病院があります。現状、地域の病院診療所との関係は良好である。 地域医療支援病院は、急激に変化する医療環境の変化に応じた責務を盛り込み、かつ病院として存続の可能性を評価する必要があります。また、 地域医療構想の取り組みに合致した病院計画になっているか、医療の縮小にも存続可能な経営計画が立てられているか が地域医療支援病院としての責務に必要と考える。(意見の詳細は別紙)

区域	有明	飯塚	直方・鞍手	北九州	京築
議題1	<p>当区域においては、救急医療や病診連携、かかりつけ医の確保なども含めた地域全体の医療提供体制は比較的整備されており円滑に運営されている。</p> <p>課題 かかりつけ医が有する診療機能について、地域住民対象および医療機関同士の情報共有は必ずしも十分とは言えず、医療機能情報共有の体制を整備する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 紹介患者中心の医療を提供していること かかりつけ医から紹介・逆紹介の要望が多い診療科については週の大半で医療を提供していることが必要です。 ● 救急医療を提供する能力を有すること この地域の支援病院が救急医療に徹していただくためにも一次救急体制の整備が必要です。特に夜間の小児一次救急など。 ● 地域連携クリティカルパスを策定するとともに、地域の医療機関に普及させること 在宅医療及び新型コロナウイルス感染症対策において、地域医療支援病院とかかりつけ医との連携づくりが必要です。 ● 飯塚地域の課題解決のために地域医療支援病院が担う機能については、優先順位を考え着実に地域医療対策を推進することが必要です。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢化が進んでいる現在において認知症対策が必須であり、一般科と精神科との連携および行政も含めた地域全体での取り組みが必要である。またその中心となるべき認知症医療センターの設置が望まれる。 ● 小児及び周産期医療の拡充に関しては以前からの課題であるが、単一の医療圏だけで解決できるものではなく、広域あるいは県全体で取り組む必要がある。 ● 在宅医療の推進が行われていく中で、末期がんに対する在宅でのケアも増えることが予想される。それに対応するためのがん治療に係わる地域連携クリティカルパスや緩和ケア対策を進めることが大切である。 ● 医療機関が患者情報を多様な面から把握し共有できるようなデータ管理システムの構築が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新型コロナウイルス感染症のような新興感染症等の対策について。以下4点の協力・整備。1)ワクチン接種への協力 2)感染蔓延時における発熱外来の設置3)抗原検査・PCR等の検査受け入れ 4)陽性患者の入院受け入れ ● 救急医療において少なくとも病床数の5倍以上の患者数を受け入れ(年間) ● 認知症や障害を持つ患者の急性増悪時における積極的な受け入れ ● 学校健診における協力医としての積極的な参加 ● 産業医の資格を持つ医師に学校産業医としての協力が在宅医療の推進による地域医療体制の支援(在宅患者の後方支援、小児在宅医療患者のレスパイト入院、訪問診療、往診看取り等) ● 災害発生時の医療体制の確保 ● ICTを活用した過疎地域への医療支援の体制整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新興感染症の感染拡大時における医療 ● 地域医療の逼迫を回避する地域内の医療機関の役割分担等、更なる医療連携 ● 在宅医療を担う医師の不足 ● 産科医療機関の不足
議題2	<p>大牟田市立病院は地域医療支援病院として諸種活動を行っており、おおむね責務を果たしていると評価できる。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新興・再興感染症に対する医療機能提供を中心的かつ積極的に担うこと。 ● 地域の看護学校実習生(特に准看護師)の受入れにより積極的に協力すること ● とびうめネットを用いた病診連携の整備を推進すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の医療従事者に対する研修の実施 研修医の受入れなど地域における医師確保の取組を責務に追加していただきたい。 ● 病院機能について広域を対象とする第三者による評価を受けていただきたい。 	<p>直方鞍手医療圏には地域支援病院がないためこの議題2に関しての直接的な回答は不能である。</p> <p>今後在宅医療を推進していくためには是非とも当地域に地域支援病院が必要と思われる。しかし、現在の地域支援病院の認定基準のハードルが高く、県には地域の実情に合わせた柔軟な対応をお願いしたい。</p> <p>現在当地域では、管内の各病院がそれぞれの立場に応じた状況で、在宅医療の後方支援病院的な役割を担っています。それを維持推進していくためには、病診連携の整備・強化、人材の確保・育成や病患者情報の共有化が大切と考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 医師会立をはじめ看護専門学校など看護師等養成所からの実習生の受け入れや講師派遣への積極的な協力 ● 感染症対応を含むJMATへの協力体制の構築 ● 自然災害、人為的災害のみならず、新型コロナ感染などの生物災害に備えた体制整備、BCPの策定を行う ● 在宅医療が不足している地域においては、往診、訪問診療、訪問看護および検査および入院対応を含め、その中心的役割を担う(地域の実情にあった医療体制の充実を図る) ● 新興感染症や災害発生時における拠点病院としての中心的役割を担う ● 地域医療支援病院として研修受け入れ ● 逆紹介を円滑に行うための退院調整部門を設置病院の機能について広域を対象とした第三者による評価を受けていること ● 情報通信技術を用いた病診連携等(とびうめネット等) ● 行政や地域関係機関等との連携推進のためネットワーク構築等に取組む 	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報通信技術を用いた定期的な意見交換の場の構築等、病診連携の更なる整備、強化 ● 地域内の(准)看護学校からの採用、看護実習生の受入れ等、地域内の(准)看護学校への協力 <p>京築地域の地域医療支援病院は公的医療機関がない当構想区域でコロナ禍においても地域医療支援病院の責務を十分に果たしていると思います。</p>